

自分の歯が残っている高齢者の口臭対策の基本は、主な原因である歯垢や食べカスの除去であり、最も効果的な方法が毎食後や就寝前の歯みがきです。しかし、食事直後の水・洗口液・含嗽剤などによるうがいも、歯みがきに次いで有効とされています。

① 洗口液

歯みがきができない要介護者の応急的口臭対策として、また歯みがきができるようになるまでの導入段階として、洗口液を用いる意義はあります。

ただし、消臭効果の高い洗口液には、辛味の強いものもあります。高齢者・要介護者には、水で薄めて使うのも一つの方法で、例えば口臭の原因である舌苔の除去に際して、薄めた洗口液をスポンジブラシに含ませてこすり取る方法がよく見られます。また、洗口液は主たる消臭指向

口臭予防の洗口液・含嗽剤

高齢者の口臭の原因と対策(5)

に加えて、薬効が期待できるものもあります(表1)。

② 含嗽剤

洗口液が主に消臭目的や歯みがきの前段階で使われるのに対して、含嗽剤は口の中だけでなく咽頭・喉頭内の粘膜の炎症の改善、抜歯後の感染予防などに有用です。ヨード製剤・界面活性剤・抗生

物質製剤は、口の中の消毒や感染予防に用います。一方、アズレン製剤は、主に炎症を抑える含嗽剤です(表2)。

洗口液は、歯間部・歯周部へ行き届かせるために、ある程度激しい洗口をした方が効果的ですが、含嗽剤は、とくに抜歯直後に用いるときは、軽いうがいに止め

分類	商品名(メーカー)
洗口液 A (消臭)	モンダミン (アース製薬) オーラツー (サンスター) フラボケア (ロッテ)
洗口液 B (消臭薬効)	リステリン (ワーナー・ランバート) クリアクリーン (花王)
液体歯みがき 〔洗口後、歯みがき〕	ミクロクリーン (ライオン) ラカルト (エスエス製薬) ハピカ (森下仁丹)

表1 市販の洗口液の代表例

主成分	商品名(メーカー)
ヨード製剤	イソジンガーグル (明治製薬)
界面活性剤	ネオステリングリーン (日本歯科薬品)
抗生物質製剤	デンターグルF (昭和薬化)
アズレン製剤	含嗽剤アズレン (昭和薬化)

表2 成分別の含嗽剤の代表例

ておく必要があります。

いずれにしても、口臭対策なのか、抜歯後の消毒なのか、日常の感染予防なのか、によって、最適な洗口液・含嗽剤を選ばなくてはなりません。

とくに、要介護高齢者の場合、BDR(口腔ケア自立度)が各人すべて異なりますので、不明の点は、かかりつけの歯科医師または左記の口腔ケア支援センターへ、ご相談ください。

徳島県歯科医師会

口腔ケア支援センター

担当理事 佐藤 修斎

(088) 631-3977